

団体名

まちの学園祭実行委員会

実施内容

学生が自身の人生の主人公になれるように。学校の枠を超え地域に開かれた出会いと挑戦の機会を作ります。どんな学生でも活躍できる。学生が「視野」を広げ、自分の道を切り開くための「一歩」を踏み出せるそんな場所として、ブース出店、トークセッション、ステージ発表、ご飯会を行います。

目的

- 1 学生にとって
学校の枠を超えた「出会い」と「挑戦の機会」を提供することで、日常の学校生活やアルバイトでは得られない、多様な価値観や経験を持つ同世代・大人・地域社会とのつながりを生み出します。これにより、学生の視野が広がり、自ら一歩を踏み出す力や、将来を主体的に選択する力を育むことを目的としています。
- 2 大人にとって
ジュウシンを通じて「若者の価値観や可能性に触れ、共に未来を考える機会」を生み出します。地域の未来を担う若者と関わることで、自身の経験を伝える場となり、同時に刺激や学びを得る双方向の関係が生まれます。また、地域企業や団体が学生とつながることで、将来的な人材確保や事業の新しい展開へのヒントにもつながります。
- 3 地域にとって
「若者と地域がつながる接点」となり、持続可能なまちづくりに寄与します。地元に住む・学ぶ若者が地域の魅力や課題に触れることで、地域への関心や愛着が生まれ、将来的な定住やUターンのきっかけになります。また、若者が街に出ることで世代を立場を越えた交流が生まれ、地域コミュニティの活性化にもつながります。

効果

本事業を通じて、学生が学校外で多様な人々と出会い、自分の興味関心や今後の挑戦を見つめ直す機会を生み出すことができました。ブース出店やトークセッション、ステージ発表、ご飯会を通して、学生動詞だけでなく地域の大人や企業、団体との交流が生まれ、若者が地域に開かれた場の中で一歩を踏み出すきっかけづくりにつながりました。また、地域の大人にとっても、若者の考えや行動力に触れ、世代を超えた対話や関係づくりが生まれる機会となりました。結果として、若者と地域がつながる接点を創出し、今後の継続的な関わりや新たな挑戦の土台を築くことができたと考えています。

今後の課題

今回、イベントの規模をこれまで以上に広げて実施したことで、多くの来場者や関係者との接点を生み出すことができた一方で、運営体制や役割分担の面では課題も残りました。準備や当日の対応において、実行委員会メンバー、一人ひとりへの負担が大きくなり、周囲の関係者にも多くの協力をお願いする場面がありました。

今後は、規模拡大に見合った運営体制の整備や、事前準備の進め方、役割分担の明確化を進めることで、メンバーや関係者に過度な負担をかけず、持続可能な形で事業を実施できる体制づくりが必要であると感じています。

事業実施経過

年月	実施事項
令和7年8月4日	音響会社との打ち合わせ
令和7年9月26日	一部出店団体と前夜祭の実施
令和7年10月2日	備品の受け取り
令和7年10月4日	イベント実施
令和7年10月7日	イベント振り返り